

## 第11回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会のテーマと企画概要

「ヘルスコミュニケーション学の研究方法論の探究」というテーマから、具体的な企画に落とし込むために、人のコミュニケーションを歴史的にたどることによって、ヘルスコミュニケーション学の重要な研究分野を3つ特定しました。コミュニケーションは、ヒトの進化の上で、非言語コミュニケーションとして始まり、言語の誕生によって、言葉と非言語による対人コミュニケーションがなされるようになりました。そこで、下記のようにまず対人コミュニケーション研究の方法論を取り上げることにしました。対人コミュニケーションは、コミュニケーションにおいて、もっとも古くて、基本的なもので、あらゆるコミュニケーションのための基礎となっていると考えます。

### シンポジウム1「医療における対人コミュニケーション研究のアプローチ」

座長：石川ひろの（帝京大学）、高永茂（広島大学）

川島理恵（京都産業大学国際関係学部 准教授）

「医療場面における意志決定過程のコミュニケーション：会話分析的アプローチでみえること」

野呂幾久子（東京慈恵会医科大学 教授）

「機能分析（RIAS）によるアプローチ」

藤森麻衣子（国立がん研究センター社会と健康研究センター 室長）

「コミュニケーションを変化させる：医師に対するコミュニケーション・スキル・トレーニングの有効性評価」

その後、文明の発展により、文字の使用が始まり、文書が誕生しました。文書を介して、直接対面していなくても、多くの情報を数多くの人に伝達可能となり、また長期にわたる記録の保存が可能となりました。文字による文書の発明と普及は、人類のために大きな発展でした。そこで、次に文書の研究方法論を取り上げることにしました。

### シンポジウム2「医療情報をどう作り、どう届けるか～文書に関する研究アプローチ」

座長 中山健夫（京都大学）、高山智子（国立がん研究センター）

北澤京子（京都薬科大学 客員教授）

「Shared Decision Making を促す患者向け医薬品情報」

酒井由紀子（東京財団政策研究所政策データラボシニア・マネージャー兼研究員）

「ヘルスコミュニケーションにおける方法論としてのリーダビリティ研究」

西村多寿子（医療ライター・翻訳者、プレミアム医学英語教育事務所 代表）

「「医療福祉ジャーナリズム学」研究の一事例～ディオバン事件と臨床研究法成立の関係に迫る～」

早川雅代（国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供部室長）

「患者向け医療情報ではどのような文章表現がよいのか～がん情報作成経験より」

時代は遙か過ぎ、19世紀末になって、フィルムによる映画が誕生して、映像が記録できるようになりました。20世紀初頭にはトーキー映画が誕生（音のない無声映画に対して、音が入っている映画をトーキー映画と呼びます）しました。20世紀中ごろには、電波によるアナログテレビ及びアナログビデオテープが実用化されました。テレビ映像は、デジタル化され、高画質になり、DVD、Blue-Ray等のメディアの形でも提供されるようになりました。最近では、インターネットによるオンデマンド型の映像配信が本格化しています。文書が理性や想像力に訴えるのに対して、映像は情動に直接訴えることができます。映像を活用したヘルスコミュニケーションは、非常に重要な役割を果たすと考えます。そこで、3つ目として、映像の研究方法論を取り上げることにしました。

### シンポジウム3「映像を創る、映像を分析する」

座長 河村洋子（静岡県立文化芸術大学）、加藤美生（帝京大学）

市川衛（NHK 科学医療部チーフディレクター）

「「バズる」「心を動かす」映像のヒミツ～テレビ・ネットを中心に」

渡邊清高（帝京大学内科学講座腫瘍内科・准教授、メディアドクター研究会代表）

「医療健康報道の質を探る－メディアドクターで記事を「科学」する」

伊藤守（早稲田大学教育・総合科学学術院教授、社会情報学会会長）

「ヘルスコミュニケーションと映像メディア：映像分析の視点から」

上記3つのシンポジウムに加え、ヘルスコミュニケーション学の研究方法論を俯瞰するために、もっと一般的に専門家と非専門家のコミュニケーションの視点からの見方が重要ではないかと考えました。このため、この分野に造詣の深い東京大学情報学環の石崎雅人教授に基調講演をお願いして、ご快諾をいただきました。

### 基調講演「ヘルスコミュニケーションにおけるコミュニケーションとディスコミュニケーションの相互作用－医療情報のあり方の観点から－」

座長 木内貴弘（東京大学）

演者 石崎雅人（東京大学情報学環教授）

以上、シンポジウムと基調講演の企画立案の経緯について、説明して参りました。今回のテーマや企画が、参加者の皆様に真に有益であるように願っております。各企画の詳細については、各企画のページをご参照いただければ幸いです。